1　アンケートについて　　鵜養委員長としては下記の案で行きたい。

（仮称）つくし野自治会館建設アンケート回答用紙　　つくし野自治会館建設委員会
　私達は、自治会館建設事業計画（案）を発表して、この間、４自治会と地域ふれあい基金運営委員会に説明と質疑を行い、12月８日には住民説明会を開催してきました。自治会館建設の資金は、町田市の補助金と地域ふれあい基金の特別事業を当てることとしています。これらは、いずれも４自治会の総会で承認を受けなければなりません。このアンケートで「賛成」が総回答数の３分の２を上回った場合は、地域ふれあい基金運営委員会に対し４自治会の各総会に事業計画（案）を特別事業として提議するよう求めることとします。
　【設問】あなたは、事業計画（案）に賛成ですか、反対ですか、それともどちらでもありませんか？
　あなたのお考えにあう方を○印で囲んでください。
賛成　　反対　　どちらでもない

(鵜養委員長)
住民説明会では、アンケートで「賛成」が総回答数の３分の２を上回った場合は、地域ふれあい基金運営委員会に対し４自治会の各総会に事業計画（案）を特別事業として提議するよう求めることとする。
５割台ぐらいだったら止めることも含めて検討するという話をしたい。
アンケートは12月中旬から始めて年内か年初には回収したい。

(委員意見)
・投票率(回収率)が低い場合は住民の意思が反映されないことになる。投票率にもハードルを設けるべきではないか。
・60%以上の投票率があれば有効として、それ未満であればアンケートは成立しないこととする。
・回収率６０%で賛成がその三分の二となると、賛成が全自治会員の40%になってしまうが、それでよいか。
・選挙などでも投票しない人は意思を示していないのだから、致し方ない。住民意思を多くすくい上げるために、各自治会で回収率を上げる努力をする。

2　住民説明会資料の印刷
12月6日(金)9:30～　200部印刷する。

3　２丁目自治会の意見に対する建設委員会回答についての意見(友井説明)
4
(1)高い利用率の会館との比較-人口による比較
建設委員会の全戸配布資料では、「高い利用率のさくらんぼホール(50～81%)、高ヶ坂ふれあい会館(57%)」などをあげて、需要を開発すれば高い利用率を実現することができる旨のことが記載されている。しかし、これらの地区はつくし野と比べて人口が多い。さくらんぼホールのある玉川学園地区は16,300人以上でつくし野の6600人の2.5倍である。だから駅前にコミュニティセンターがあっても高い利用率で黒字を達成している。高い利用率の会館はすべてつくし野よりも大幅に人口が多い。つくし野は人口が少ないからつくし野センターと並立すれば利用率は低くなり赤字を出すことになる。

(2)つくし野センター利用率から自治会館利用回数の推計
つくし野センターの利用者が会館を利用すると考えるのが自然であるので、会館の利用見込みをつくし野センターの現在の利用率、利用回数から推計すると、年間利用回数は260件になる。建設委員会資料モデル①の利用率10%の329回よりも低い数字である。光熱水費等を賄うランニングコストの損益分岐利用率「12%の利用率はそんなに高い水準ではありません」と言っているが、これも下回る可能性がある。
さらに、「修繕積立金を含めた利用率は23%」と言っているが、20%の利用率は、年間657回の利用で、つくし野センターの第１会議室と第２会議室の年間利用回数が約1300回ですから、これの半数が自治会館を使うことになる。建替積立金を確保するためには40%の利用率で、利用回数にすると1314回で、つくし野センターの第１会議室と第２会議室の年間利用回数のすべてが会館を利用することになり不可能である。

(委員意見)
委員：利用率が高い施設は部屋数が多く規模が大きい。確かに指摘された人口により利用率が高いことはあるかもしれない。